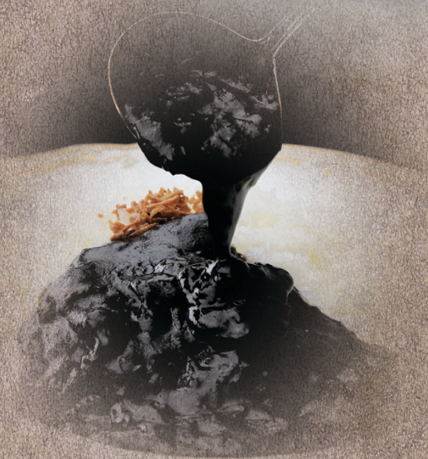




半泥子が愛した 美と食を巡る

津 遊 不 皮



川喜田半泥子 (1878~1963、本名・久太夫政令)



江戸時代初期より江戸大伝馬町で木綿問屋を営んだ津の豪商・川喜田久太夫家の16代。経済人。百五銀行第6代頭取として活躍する傍ら、陶芸、写真、書画、茶道、俳句、歴史、建築など多彩な趣味を持ち、禅でつちかった型にとらわれない自由で伸びやかな心で風雅に遊んだ。中でも還暦近くなってから本格的に取り組み、朝鮮古陶や織部、乾山に学び独自の作風を創り上げた陶芸は我が国陶芸史に異彩を放ち、「昭和の光悦」あるいは北大路魯山人と共に「東の魯山人、西の半泥子」と讃えられ、近年ますますその評価が高まっている。

昭和17年(1942)、後にいずれも人間国宝となる若き日の荒川豊蔵(美濃)・金重陶陽(備前)・三輪休和(萩)と作陶連盟「からひね会」を結成、その精神的支柱となり、半泥子の昭和陶芸への多大な貢献も再評価されつつある。戦後は津城南南郊の千歳山の自宅から西郊長谷山麓の広永に窯を移し「廣永陶苑(現在の廣永窯)」を設立し、坪島土平ら弟子を育成しながら作陶を楽しんだ。

半泥子が創設し、近年千歳山の自宅跡に移設された「石水博物館」は、世紀の発見となった謎の浮世絵師東洲斎写楽の肉筆扇面画や北海道の名付け親・松浦武四郎の書簡、全国屈指の質・量を誇る芝居番付、あるいは書画骨董の名品など川喜田家歴代の膨大なコレクションと半泥子の多彩な作品を所蔵している。

また、食通でもあった半泥子は自宅門前に日本料理の「はま作」、津城本丸跡前に西洋料理の「東洋軒」を招致。現在「東洋軒」の名物メニューとなっているブラックカレーは半泥子がプロデュースしたことで知られるなど津の食文化にも足跡を残す。

掲載の川喜田半泥子の作品は全て石水博物館蔵



一般社団法人
津市観光協会

〒514-0009 三重県津市羽所町700 アスト津1F
TEL059-246-9020 FAX059-221-0811
<http://www.tsukanko.jp/>

東の魯山人、西の半泥子と称される

川喜田半泥子が愛した美と食を体験しよう



石水博物館

〒514-0821
三重県津市垂水3032番地18
TEL:059-227-5677
FAX:059-213-5789
<http://www.sekisui-museum.or.jp>
休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)
展示替期間、年末年始
開館時間:10:00~17:00
(入館は16:30迄)
入館料:一般 500円(税込)



窯場の山里茶席 半泥子廣永窯

ギャラリー仙鶴・本社
〒514-0028
三重県津市東丸之内33番1号
TEL:059-221-7120
FAX:059-221-7122
定休日:月曜日
営業時間:10:00~16:00
窯場
〒514-0071
三重県津市分部1770番地1
TEL/FAX 059-237-1723
定休日:日曜日・祝日



はま作

〒514-0821
三重県津市垂水3013-1
TEL:059-228-3088
FAX:059-228-5755
定休日:第三日曜日
営業時間:11:30~14:00
17:00~
定休日の翌日の営業は17:00~
※要予約



東洋軒本店

〒514-0033
三重県津市丸之内29-17
TEL:059-225-2882
<http://www.touyouken.co.jp>
定休日:月曜日
(祝日の場合は営業、翌日が代休)
営業時間:11:00~14:30(OS:14:00)
17:00~21:30(OS:20:30)